

審議結果

審議会等名称：神奈川県総合計画審議会第101回計画推進評価部会

開催日時：令和6年7月10日（水）15:30～17:30

開催場所：神奈川県庁西庁舎6階 災害対策本部室

※Web会議サービスによるオンライン会議を併用して実施

出席者：◎小野島真、河野英子、玉田麻里、山田貴子、国崎信江、坪谷美欧子、中西正彦、原嶋洋平、堀越由紀子、矢島洋子、山岸絵美理、山本篤民、米田佐知子、羅順英、金川剛文、中田直樹
〔計16名〕

（◎部会長）

次回開催予定日：令和6年10月中旬

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 山田

電話番号045-210-3061（直通） ファックス番号045-210-8819

審議経過（議事録）

議題 「新かながわランドデザイン実施計画」の進行管理について

《資料1について事務局から説明》

- **小野島部会長**：ありがとうございました。資料1「新かながわランドデザイン実施計画の進行管理の考え方（案）」で、進行管理について、基本的な考え方をご説明いただきました。資料2「新かながわランドデザイン実施計画 評価報告書 様式イメージ」では、最終的な成果物の案を示していただきました。それでは、ただ今説明のありました、新かながわランドデザイン実施計画の進行管理について、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思いますので、よろしく願います。なお、審議に当たりましては、できるだけ多くの委員の皆様からご意見をいただきたいので、お一人当たりの発言は2分程度にさせていただきたいと思っております。オンラインで参加の方は、挙手機能等でお知らせください。それでは、ご発言のある方は挙手をお願いします。
- **河野委員**：この度は、計画の進行管理について、詳細にご検討いただきありがとうございます。大いに勉強させていただきました。それを踏まえて、私からは、ロジックモデルとそのアウトカムについて、2点、留意した方がよい点を申し上げたいと思っております。一つ目はロジックモデルについて、こちらは、基本的に改善する可能性があることを前提に置くことが有用ではないかという点になります。その理由は二つあり、第一に、ロジックモデルそのものが、改善を前提としたものであり、周到に考えたとしても、実施していく中で、変える可能性があるということ。第二に、今回の総合計画の中でも書かれていた通り、策定した段階では想定し得なかった事態が起こり得ることが十分に考えられるため、柔軟な政策展開に対応して改善を加えることが有効であるということです。
二つ目にアウトカムについて、多角的な評価は非常に意義があると考えます。その中で、アウトカムは、短期、中期、最終という形で、発展的に実現していく性質を持つという点です。アウトカムは、全てのものが同じ時期に実現し得るものではなくて、段階的に現れていく性質であるということです。限られたリソースで、県政が様々な取組をされるなかで、アウトカムの段階的な出現を前提に置いて、評価を加えていくことが有用なのではないかと考えます。
- **小野島部会長**：ありがとうございました。ロジックモデルの見直しは今後あり得るという点と、アウトカムが段階的に現れていく性質であることを踏まえながら評価を加えていくことが有用なのではないかというご意見でしたが、このことについて、事務局からご説明いただけますか。

○ **馬淵総合政策課長**：貴重なご意見ありがとうございます。ロジックモデルを作成した際、総合計画審議会でも議論いただきましたが、ロジックモデルは仮説であり、各取組が目標として掲げた指標に実際に向かっているのかどうかを検証していくことが重要であり、検証した結果新たに生じた課題を次の政策改善に繋げていく必要があると考えています。また、短期、中期、最終アウトカムで、効果の出現するタイミングが違ってくるというご意見については、私もはっとさせられました。そういう意味では、今回、評価報告書の作成に当たっては、実績値を経年で追えるように一覧化した方がよいのではないかと事務局でも議論をいたしました。資料2、3ページ以降の記載のとおり、取組の実績値を経年で追うことで、過去も振り返って、それぞれの整合性を見ていく、そうしたことを意識することが有効であると考え、今回の案をお示ししたところです。

○ **小野島部会長**：ありがとうございます。続いて米田委員、よろしくお願ひいたします。

○ **米田委員**：行政評価のトレンドを踏まえて、考え込まれて作成していただいたと感じております。委員を留任しているので、評価は初めてではないのですが、改めて評価方法を考えた時に、確認しておきたいことがあります。私たちは、評価という良い点を取らなければという意識を持ちがちです。これは現状確認と見直しが目的である、ということをしつかりと確認し、県民の方々にもお伝えしていかないと、4段階評価で「遅れている」では駄目じゃないか、という話になりがちです。遅れていることを把握し、その理由を確認して改善する、そのための評価だと伝わるようにしていかなければいけないと考えます。評価という言葉でイメージが先行してしまう懸念が、お聞きしていて、まず感じたことでした。

今回、意見を伺いたい事項の中にあつた「県民に向けた分かりやすい評価」について、意見を申し上げます。ロジックモデルやKPIは、評価分野では皆さんよくご存じの言葉ですけれども、広く県民にとって一般的な言葉かという点、馴染みがない言葉ではないかと思ひます。冒頭に、ロジックモデルについての説明書きはあつたとしても、評価報告書を読み進めると全項目に、馴染みのないロジックモデルやKPIという言葉が並び、自分たちとは関係のないものというふう感じられそうです。これが私たちの身近な生活に直結していることを、身近に感じてもらえることは大切なので、専門用語の扱いについて、検討ください。

もう1つ、これまでなかつたことで、今後4年間の中でご検討いただきたい提案です。データや指標で評価をすることは、一見分かりやすそう公平な気はしますが、参加型評価も行えると良いのではないかと思ひます。すべての事業でなくてもいいですけれども、特に福祉分野や対人支援の部分など、利用者の声を評価に活かしたいです。評価に参加する中で県政が、県民に身近になったり、自分たちも主体的に意見を出していく意識も芽生えてくるのではないかと思ひます。これまでも毎年パブリックコメントの募集で、県の担当者が苦労されているのを見ていることもあり、提案をさせていただきます。私からは以上です。

○ **小野島部会長**：ありがとうございます。県民の方々にどのように見せていくか、評価報告書の見せ方の問題やデータ以外の参加型評価などの手法についても検討をいただきたいといったご意見でした。これに關しまして事務局からご回答お願ひいたします。

○ **馬淵総合政策課長**：貴重なご意見ありがとうございます。専門用語につきましては、県民の方に分かりづらい部分もあろうかと思ひます。その一方で、県職員がロジックモデルを理解した上で、一次評価を行っていくことも大事だと思ひます。ですから、県自体の評価と県民に分かりやすく意見を求めていくときの見せ方を工夫して、情報や冊子の作り方を今後検討していきたいと思ひます。参加型評価につきましては、今後、政策改善の年間スケジュールを踏まえての検討になってくると思ひますので、県民から評価のご意見をいただくときにそうした場の設定ができないかなど、併せて検討していきたいと思ひます。

○ **小野島部会長**：次に、原嶋委員お願ひいたします。

○ **原嶋委員**：既に貴重な意見も出ておりますので、重複しないところで1点懸念している点をお話しさせていただきます。客観的に評価を進めるということですが、一方で、総合的な評価、あるいは多角的な評価ということもおっしゃっていました。過去私がお手伝いをした経験から言うと、多角的評価、総合的な評価が結果的に客観性を損なってしまうというケースがしばしば考えられます。1点、質問と同時にお願いがあります。まず、実務的な質問です。K P I の達成状況と4つの評価区分の結びつきがはっきりしないという点です。達成状況と評価区分の結びつきをはっきりさせておかなければいけないと感じています。例えば、資料2の2ページの例示の中で構成施策ごとの目標達成割合が、30%、60%、100%と、合わせると9項目のうち6項目達成していることになっています。そうした場合達成率66%となるのでしょうか、それがどうして概ね順調なのか。原則論で結構ですが、当然それに加え、それ以外の指標によって修正を加えることはあると思いますが、以前関わった時にそこがはっきりしていないために、皆さんの意見が全く分かれてしまいました。県の職員の評価も、我々が受け取った後も、一人ひとり持っている物差しが違うと、4段階の区分が全て分かれてしまい、結果的に総合的な評価が非客観的な評価や再現できない評価になってしまいます。この例で言えば、どうして9項目のうち6項目達成していることが概ね順調と言えるのか、逆に言えば、K P I がどれくらい達成されていれば、4段階のうちどれに該当するのかという、原則的な考え方について教えていただきたいと思います。そこをはっきりさせておかない限り、客観的に、複数の方が関わった時に同じように再現できる結果にはならないと思います。

もう1点は、すでに出ていますが、関連データや主要取組結果を加えて評価すること自体は賛成です。ただ、それをどう選ぶか、どう考慮するかによってある種のバイアスがかかります。簡単に言うと、どうしても県の自己評価は甘くなりがちで、それ自体は避けられないことで差し支えはありませんが、いい方に向ける指標や取組を持ってきてしまいがちになるおそれもあります。今見ていると、実施計画の段階ではそのような関連する統計データや取組姿勢については全く例示もなく、ある意味恣意的にも選べてしまいますので、そこを疑われないようにどう選んだか、どう考慮するかということも考える必要があります。K P I の達成状況と、4つの評価区分のつながりを誰でも分かるように基準を決めていただくことと、関連データあるいは主要な取組をどのように選んで、どのように考慮するかについてももう少し恣意的にならないように説明していただければというお願いです。

○ **小野島部会長**：ありがとうございます。原嶋委員から2点ご質問をいただきましたので、事務局からお答えいただけたらと思います。

○ **馬淵総合政策課長**：ありがとうございます。まさに今委員からお話のあったところについて是非ご意見をいただきたいと思っておりました。我々は総合評価をどのように進めていこうかと議論をしているところですが、例えば「K P I が全て達成されていたが、関連する統計データは芳しくなかった」という場合が仮にあったときに、それは順調なのか、という疑問が出ると思います。そのため、我々としては総合的に、K P I、中間アウトカムのデータ、アウトプット、全て含めて県として4段階のうちどれに当てはまるのかを判断していくのだろうと現時点では考えています。当然、K P I は数値目標ですから、それをベースには置きますが、だからといってK P I の達成状況と4段階を一律で一次評価をすることは難しいのではないかと議論をしているところで、そういった点について委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思っています。また、統計データを選択するときも、恣意的で都合の良い統計データになっていないかという疑念を抱かせないためには、どのような視点に留意して統計データを選択することが良いのかということも含めて、是非ご意見をいただけるとありがたいと思っています。以上です。

○ **原嶋委員**：一言付け加えです。これは私の私見ですがけれども、過去の経験から言いますと、K P I の割合と、4段階評価の原則的な結びつきは、共通の物差しを示すべきだと思います。例えば、順調を100、概ね順調が65、やや遅れているが40とか、それも原則示すべきだと私は思っています。そうでないと、委員がグ

グループに分かれて議論した時に、部会長が全体をコントロールされていけばまだいいと思いますが、それぞれのグループによって、全然言っていることが違ってきてしまう可能性がありますので、原則は示すべきです。あと、それに加えてプラス・マイナスをどうするかというのは総合的評価で、指標をどう選ぶかは、これはいろいろご意見があると思いますけれども、他県との比較、例えば、神奈川県と関東の都県とを常に比較できるものだとかを決めていかないと、比較の対象も様々になり分からなくなってしまいますので、基本的な考え方を示すべきだと思っています。

○ **小野島部会長**：ありがとうございます。次に、国崎委員をお願いします。

○ **国崎委員**：評価の見方といいますか、1つの考え方ですけれども、例えば、この「概ね順調に進んでいます」という4つの評価区分について、これが果たして必要なのかということです。これを書くことによって、評価の固定観念を植え付けてしまうということがないように思います。研究者によっては、事実だけ知っていれば自由にその評価ができるという、余白を残すというか、そうした捉え方もできると思います。ですから、この分析の中で大事だと思うのは資料2の3ページ以降だと思っておりますので、なぜこの数値が出たのか、その時の情勢や社会構造など様々な状況を踏まえてこういう結果になったというような分析が必要であって、改めてここで4つの区分が必要か、評価についての固定観念を植え付けていくことが必要なのかどうかという点も議論に載せていただけたらと思いますし、個人的には、必要ないのではないかとも思っております。以上です。

○ **小野島部会長**：ありがとうございます。この評価の物差しの件に関しまして、他の委員でご意見等ございますでしょうか。それでは矢島委員、お願いいたします。

○ **矢島委員**：ありがとうございます。今回のロジックモデルを用いた評価の構成というのは、かなり前向きでチャレンジングな内容になっていると個人的には思っています。特に重要なのは、プロジェクトの指標、アウトカム指標とKPIをつなぐ間のところで分析するというところに重きを置いているのではないかと考えています。ここで、分析として「構成施策単位で取組内容の評価を含めて分析する」と書いてあるのですが、ここでは「社会環境の変化等も含めた分析」をするということが非常に重要ではないかと思っております。KPIは進捗しているけれども、アウトカムが伸びないということは往々にしてありますので、そこについての分析が一番重要になるのではないかと考えております。その点で、今の概ね順調であるうんぬんの評価ですけれど、順調に推移しているかどうかというのはKPIの達成状況の複数項目の統合評価において意味があって、総合的な分析においては「順調である」という表現が誤解を招くかなと思いますので、総合分析においては、そういうことではなくもう少しフレキシブルな表現の方が良いのではないかと思います。その時に気をつけるべきことは、プロジェクトによっては、置かれているアウトカムが、例えば目標に対して90%近くいっているみたいな、この計画が実現すれば、ほぼほぼ県民としても満足しているといえる状況になるだろうというものと、もともとアウトカムの目標数値が約20%と低いもの、仮に計画としては達成しても県民の認識としてはとてもそんな環境ができていないと思うような水準のもの、その両方が混在していることにも留意して評価する必要がある点です。

あともう1つは、新かながわランドデザイン基本構想は2040年を目指していますけれども、計画は4年単位で進捗しますので、目指す2040年と計画4年間の進捗ということ踏まえた両方向の分析視点が必要ではないかと思えます。そして、構成施策に対する統計データ等を用いた評価が一番難しく一番大事なところかと思えます。アウトカムに近づくほど、どうしても住民の意識調査などでない表現ができないものが多くなります。もちろんそれも重要ですが、国のこども家庭審議会での計画に関する議論などでも、やはり意識による指標だけが多くなり過ぎると、それでいいのかという反発も強くなりますので、実態データと意識のデータのバランス、この辺りも重要になってくると思います。以上です。

- **小野島部会長**：ありがとうございます。次に、堀越委員お願いします。
- **堀越委員**：私は非常にシンプルな発言です。福祉の分野だけを考えたときに、障害を持っている方たちのことが新かながわグランドデザインにも書いてあって、津久井やまゆり園事件のご当地であることもあって、非常に丁寧にいろいろな委員会も行われましたし、書かれております。最も気になっているのが、今、矢島先生もおっしゃられましたけれども、構成施策の評価の、関連する統計データのところです。統計データが平均化されたデータをもってこられてしまいますと、障害の福祉に限って言うならば、「セパレート パラレルトラック」と言うのですが、重い障害のある人の人生とそれ以外の人の日常生活と社会生活が分かれたところで最初から構成されておりますので、人々に示しても、実感や関心が、自分の隣人としてそういった重度の障害を持っていらっしゃる方たち、特に強度行動障害を持っていらっしゃる知的障害などの方と同じ日常生活を生きている住民として意識していない県民の方がむしろ多いわけです。そのような日常生活で小さい頃からきておりますので、私たちの感覚では、最重度の障害をお持ちの方が親亡き後も安心な状態で住む場所ができていけば、それはもう絶対どの障害の人も良いっていうぐらい、どこが達成されれば全体が達成されているかということを感じ覚的に分かっています。でもそういう統計データを出そうと思うと、かなり低い数値になって、頑張っていないということを露呈することになるので、やはり国にしても他の都道府県にしてもカムフラージュしがちです。しかし今回の新かながわグランドデザインに関しては、私はそれをきちんと出すべきだと思いますし、別の委員もおっしゃっていましたが、数値を上げることが目標ではなくて現状をやはりきちんと出す。そういう神奈川の状態あるいは日本の状態を、県民あるいは国民がどう考えるのか。「ともに生きるかながわと言っていますけれど、それはどうしてなのだろう」と考える機会を提供させていただくことになると思います。その統計データに何を持ってくるかということと、それから参画型評価ということもおっしゃっていましたが、ケーススタディがマッチするかどうか分かりませんが、もう少し質的と言いますか、代表性をどこに持ってくるのか考えていただいて、実態を表すような評価のためのデータをご提示いただく、あるいははしていくことを希望します。以上です。
- **小野島部会長**：はい、ありがとうございました。何名かの委員から評価の物差しや考え方について、いくつかのご意見を頂戴いたしました。そもそも4段階で区別する必要があるのかというようなところ、それから統計データの選択の仕方などに関しまして、事務局から、何かお考えはありますか。
- **馬淵総合政策課長**：現時点で何か具体的な方針は言えませんが、いただいたご意見を踏まえて今後検討していきたいと思っています。1点事務局からですが、県民への分かりやすさの観点で考えたとき、段階的な評価をするべきか、それとも定性的に文書で丁寧に書いた方が逆に分かりやすいのかといったことについて、是非ご意見をいただけますとありがたいなと思います。と言いますのも、県民に分かりやすくするために情報量が多くなりますと、逆に見ていただけないことにも繋がるおそれもあります。両方の側面を考えた時にどちらがよいのかなど事務局としても悩みを抱えながら検討しているところです。是非、忌憚のないご意見をいただけますとありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。
- **小野島部会長**：はい。この件に関しましては10月に改めてご議論いただくことを想定しておりますので、今のうちにご意見等ございましたら事務局の方に提言していただけたらなと思っております。先ほどの事務局からのご意見なども踏まえ、ご意見等ございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。中西委員、よろしく願いします。
- **中西委員**：今までの議論に重なるところもございますが、私の専門が都市計画ですので、実施計画でいうと44ページ、都市基盤の辺りですとか、あるいは40ページの危機管理に対する基盤整備が主に気になるころではあります。その観点でどのように評価するのかなと想定しながらイメージしますと、KPIや数値的になっているものだけでは評価がしにくいという感触を受けています。これはなかなか難しいところがあ

りまして、これまでの部会でも最終的な評価に至る中間のところを議論してきましたし、それを読み解けるように書かないと、やはり数字から何でこうなるのだろうというのが出てきてしまうのかなという気がしています。その観点で評価報告書様式イメージを見ますと、やはり情報量を増やすことが難しいという話があったかもしれませんが、もう少し質的なものを書く部分があった方がいいのかなと少し感じるころがございます。おそらく様式でいうところの3ページ、分析のところ議論が凝縮するイメージなのだろうとは想像しますが、例えば、状況の変化だとか、あるいは災害が実際に起きたりしたときなどでは数字うんぬん以前に色んな記述をせざるを得ないところが出てくるだろうと思います。ですからこの間の社会環境の変化とか、部会で出た意見などを、箇条書きなどで構いませんので少し書く部分があってもよいと思いました。それを踏まえて、各委員が専門的に研究されている状況の変化とかあるいは事務局が出した案なども含めて分析に最終的にすべてが集約されるという表現の仕方の方がよいのではないかと思いついて見ました。少し今の書き方だと数字から直結して分析に繋がっているように見えますので、それが、最終的に概ね順調に進んでいるとなるとどうしても飛躍を感じざるを得ない理由かなというふうに感じたところです。一方で、文書を増やせばよいかという問題でもなくて、増やしすぎると読んでもらえないということも分かりますので、バランスを考えながら検討していただければと感じました。以上です。

- **小野島部会長**：はい。ありがとうございました。ただいまのご意見につきまして事務局から、ご回答お願いいたします。
- **馬淵総合政策課長**：ありがとうございます。今ご意見いただきましたとおり、この様式にどれだけの文章量を書き込むのか、ベストなバランスを模索しながら、検討していければと思いましたが、ヒントとしていただきました社会環境の変化などを項目立てして記述に加えるですとか、評価にかける作業的な部分も踏まえつつ、今後の政策改善につなげていくためにどういった情報が必要かを意識しながら考えていかなければならないと思っています。我々も評価のための評価にならないように、政策改善に繋がるような評価をするためにはどうしたらよいかという点について、事務局で議論しておりますので、いただいたご意見も参考にしながら、引き続き検討して参りたいと考えています。よろしくお願いたします。
- **中西委員**：ありがとうございます。是非お願いしたいと思っています。先ほどうまく伝えられなかった部分がありますので少し補足させてください。例えば、実施計画の45ページ、Bの「活力と魅力あふれる強靱なまちづくりの推進」というところで、いろいろな取組があるのですが、KPIが設定されていない項目は評価がしにくいと思いました。例えば、2つ目の○に「景観」や「歴史・文化」について、はっきり書いてあるのですが、該当するKPIがありません。これはKPIが設定しにくいのだということはよくわかるのですが、質的なものもきちんと踏まえてこそ良い総合計画だという気もしますので、それを書く部分としてもやはり質的なことを記述するところが必要と感じたところが、先ほどの意見に繋がっております。そこも含めてご検討いただければと思います。以上です。
- **小野島部会長**：はい、ありがとうございます。それでは国崎委員、よろしくお願いたします。
- **国崎委員**：たびたび恐れ入ります。私も先ほど少しうまく表現できなかったところがありますので、補足させていただければと思います。今回、評価部会の中では、グループ評価があるかと思っています。そこで1つの案ですが、「概ね順調に進んでいる」という主観を植えつけることなく、事実をどのように受けとめるのかという自由度は残しながら、例えば評価委員からの読み取り方のコメントのようなもの、この結果はこのように分析、理解すればよいという多角的なコメントが二、三人の委員からあれば、読み手としても理解しやすいのではないかと思います。そうすることによって、まさに、この「概ねに順調に進んでいる」について、自己評価できるのではないかと思います。

それから私の専門であります、実施計画の41ページですが、研修を受けたら、県民の意識が高まるのか、

実質的にこれで命が守られるのか、といった部分が非常に評価しづらいというところがあります。例えばその訓練の参加人数が多ければ、災害に強いまちづくりに繋がっているのかという点について、ただ人数を増やせばいいということではないような気がします。具体的には「ビッグレスキュー・かながわ消防などの訓練参加人数」や「かながわ版ディザスターシティを使用した訓練への消防団員及び自主防災組織の延べ参加人数」というKPIがあります。数値としては非常に分かりやすいのですが、それが実質の災害への対応力強化に繋がっているのか、ということがあります。例えば、ビッグレスキューの訓練に、多くの方が参加すればよいとされますが、会場のキャパシティの問題や日程が制限されているものに対して、「参加人数」で評価しているのか、もっと自由に県民が参加できる項目で、評価できるものはないのかと思います。条件に制約のある中で訓練の参加人数をKPIとして設定するのではなく、例えば、水害でも災害情報を確実に入手するための県の防災アプリの登録者数など、統計データの取り方としても、考慮するところがあるのではないかと思います。例えば、今までの結果を覆すことになったり、経年データの尊重ができないことになるかもしれませんが、研修回数をKPIとして設定して、3回実施しましたということではなく、全県民の人口に対して果たして何割が訓練に参加したのか、というような割合を重視することが必要です。毎年同じ人が参加して、参加の裾野が広がらず、結局は同じ顔ぶれで訓練した結果、防災意識の高い人と低い人との差が埋まらない、というような現状もありますので、参加者の年齢層などをしっかりと把握するなど、今後の戦略的な立案に繋がるような統計データの取り方も重要ではないかと私自身は思っております。

- **小野島部会長**：ありがとうございます。2点ご意見を頂戴しました。1点目が二次評価の記載欄に委員からのコメントを入れられたらどうかというご提案です。2点目が統計数値について、その数値が何を意味していて、その数値が上がったらどうなのかというところをきちんと説明する必要があるのではないかとのご意見だったかと思います。この点に関して事務局からご回答をよろしくお願いいたします。
- **馬淵総合政策課長**：ありがとうございました。まず1点目ですが、グループ会議の委員からあったコメントについては、様式イメージにある二次評価欄の「概ね順調に進んでいます」の下に、そのようなエッセンスも含めて記載できれば良いと考えています。その記載方法をどうすることが良いのかということは今後検討していければと思います。その上で委員の皆様からどのようなコメントをいただいたのかということも含めて県民の方に伝わるようにしていきたいと思います。2点目のデータの取り方について、KPIを設定した時にも総合政策課と各局で議論し、毎年取得可能な統計データの中で現状示せる数値がこれらのKPIでした。その上で、既存のものが存在しない統計データについては、まずデータを取るところから始めなければなりません。データを取ることにどれだけの人パワーを投入できるのか、それを補完するためのデータがないのかといったことも引き続き考えていく必要があります。国崎委員からお話のあった防災アプリ「かながわ防災パーソナルサポート」は、最近リリースをしたところです。今、何がデータとして取れるのかということを一ブラッシュアップして改善を重ねていけたらよいと考えています。
- **小野島部会長**：ありがとうございます。それでは中田委員、お願いします。
- **中田委員**：一県民として発言をさせていただければと思います。KPIという言葉は私も聞いたことがあります。しかし、果たして県民の皆さんがこの議論にどの程度ついてこられるのかという気がしています。KPIというのは、もう1つこの先にあるKGI、キーゴールインジケーターというプロセスに対して実際に目標を達成したかどうかということと対で見ることになると思います。この計画も評価もよく考えられたものと思いますが、その目標を達成したかどうかというのは県民の皆さんが評価することだと思います。より安心した暮らしができるようになったと感じることができるのか、そこに尽きると思います。そのようなことを考えていくと、しっかりした計画や評価の考え方に書いてありますが、もっと県民の皆さんに分かりやすくするべきだと思います。つまりこれから実施していく計画や評価について県民の皆さんが分からないと言われたらどうしますか、ということです。これは私の一つ考えなのですが、今ご説明のあった新か

ながわグランドデザイン実施計画の進行管理の考え方(案)の2ページに、チェック、評価で「県民などからの意見を募集」と書いてありますが、これは基本的に年に1回、意見を募集、聞くということなのでしょう。そうだとすれば、総合計画審議会で一通りやったことに対して、これでよいですかといった形で、この場にいる委員で考えたことが先行してしまい、県民の人たちはちょっと後に取り残されているような気がします。1回の意見募集では足りないと思います。優秀な政策集団の考え方なので間違っていないと思いますが、私からすると少し違うのではないかと思います。KPIについて、県民の何割の方が知っているのか。県民の5割もご存じないのではないかと思います。KPIは重要ですが、そういう中においては、先ほど総合政策課長が言われたように、KPIという言葉を県民のいる現場に落とし込んでいくことが重要だと思います。県がやっていることに対して、意見を聞く場を設け、文章を分かりやすくするために努力するなど、もう少し県民寄りに考えてもいいと思います。例えば、資料1の2ページのCの「チェック」のところですが、最近のトレンドとしてKPIで評価していくということでもいいとは思いますが、この委員会を知らない県民の立場で考えると、ついていけないのか心配になります。また、KGIが達成できた時に県民の方々から、より安心した生活が送れていると言ってもらえるかどうかということも心配になります。そのためにも、もう少し県民の方々に頻繁に説明する場を設ける方がよいと思います。

- **小野島部会長**：ありがとうございます。最終的に県民の方々に公表する資料なので、もう少し県民が分かりやすい表現にすべきではないかというご意見と、年に1回、県民から意見募集するとなっているが、どう考えているのかという質問でしたので、事務局から回答をお願いします。
- **馬淵総合政策課長**：県の評価については、まず、県が実施した事業を自ら評価することが大事であり、その評価に対して、客観性を担保するために、審議会の皆様に二次評価していただくことを想定しています。その上で、県民の皆様から意見を伺っていきませんが、もちろん評価が甘いのではないかといった意見も出てくると思いますので、我々としては、そういった意見を政策改善につなげていくことを特に重視したいと考えています。評価については、7月に公表を予定しており、その翌年の2月には次年度の予算が固まってくるので、公表後、県民の皆様からいただいた意見を所管局に伝え、次年度の予算に反映できる期間をできるだけ長くとることで、しっかり政策改善につなげていきたいと考えています。その結果として、最終的に、県民の皆様からいただいた意見が、その後、どう政策改善につながったのかを公表していくことで、県民の皆様のお気持ちに応えていきたいと考えています。
- **小野島部会長**：次に、山田委員をお願いします。
- **山田委員**：今皆さんのお話を聞いていて同じような気持ちでいます。例えば資料2、評価報告書の様式イメージとありますが、自分と関わりがある湯河原町でも、総合計画の評価報告書の数字については、相当興味のある人しか実際に見ないと思います。新かながわグランドデザインも含めて、その中でどのようにこの評価報告書を、例えば若者に読んでもらうのか、知ってもらうのか。どのような事業があって、それをどのように評価したのか。それを知ってもらうため評価報告書を作る意図、それをどんな人にきちんと読んでもらい、読んだ人がどのような行動を起こしていくのかといったデザインまでしていく必要があると思います。やはりKPIの数字だけでは人はなかなか共感したり、心が動くということは少ないですし、すごいとか、これは出来ていないとは率直に思うのかもしれませんが、何かそこにもっと自分事として捉え、感じられる、この報告書を読んだら、何か自分もアクションしようとか、自分の暮らしが豊かになるなと感じられるものだと、結果として、次の評価のときに彼らがアクションすることで上がるKPIも沢山あると思うので、そういった行動に繋がるように、少しずつでもいいので、実際に参加した人の声や、こんなふうに自分は暮らしている、そういったところがきちんと感じられるものになるといいと思います。
- **小野島部会長**：ありがとうございます。やはり同じく見せ方を工夫していかなければいけないというご意

見だったと思いますが、事務局から、何かありますか。

- **馬淵総合政策課長**：ありがとうございます。県民の方に、自分事として捉えていただけるような内容を、どのように工夫できるか検討していきたいと思います。引き続きご助言を委員の皆様にお願ひできればと思いますのでよろしくお願ひします。
- **小野島部会長**：それでは、金川委員、どうぞ。
- **金川委員**：資料2は、県民の皆様にも公表されていくものとして拝見すると、今までいろいろご意見があったように、少し分かりづらいところがあると思います。行政施策を総合的に評価する中で、どうしても技術的になってしまい、分かりづらくなるということは、やはり逃れられない部分かと思いますが、対外的に県民の皆様に出していくときには、もう少し分かりやすくした方がよいというのがまず第一印象です。そういった意味でせっかくロジックモデルというものを使用し県民の皆様を示していくわけなので、このロジックモデルのプロジェクトのねらいというのは、この実施計画4年間でのねらいなのか、それとも、基本構想を受けて2040年までのアウトカムとしての初期的なアウトカムなのか最終的なアウトカムなのかということ、もう少し分かりやすくする必要があると思います。つまり、実施計画期間でどこまで実現していきたいということ、定性的な表現で構わないので、表示されていけばよいという印象を受けました。
それから、様式2では指標が見られる形になっているのでしょうか。例えば、未病・健康長寿に関して、実施計画の中で指標が掲げられていますが、その指標がアウトカムの大前提となっているという考えに基づけば、ここの中にも指標はどんな指標を取っているのかということが、明示されてもいいような気がします。それから、KPIについては、確かに県民の皆様にとって聞き馴染みはない用語かと思いますが、いわゆるインデックスです。数値的な評価をしていくという時に、どのKPIも等しく考えて、構成施策を持ち上げているのかどうかということ、総合的な評価をする技術的な方法として、KPIが3つあったら、それぞれウエイトとして等しくプロジェクトを下支えしているのか、それとも、1対2対3といったように重みが異なるのかどうかということも、疑問に思う点です。
最後に、こういったロジックモデルを使っているわけですから、さきほども来年の6月にはサマーレビューのようなことをして予算を決めていくというようなことをおっしゃっていましたが、ロジックモデルと大きく掲げているわけですからそこにどうインプットをしたのかということも県民の皆様も知りたいのではないかなと思いますので、人と金とモノがどのように投入されていて、事業費がどのように使われていて、事業費の縮減効果も含めてどう変わったかとか、そうしたことも部分的なところでとどまるとは思いますが、何か評価項目の中に入ってきて、県民の皆様の関心の一つにはなるのかもしれないと思いました。いずれにしてもこれを拝見した印象ですので、特に具体的なお話はいただかなくても結構ですけれども、そんな印象を持ちました。以上です。
- **小野島部会長**：ありがとうございます。こうしたKPIのモデルを精緻化していくと、どんどん県民からも分かりづらくなってしまふという、痛しかゆしのところもあるのかなという気がいたしますが、確かにご意見の中にあつたインプットの部分、どれだけの資源を投入して、どれだけの成果に繋がつたのかというのは、重要な視点だろうというふうに思います。こちらに関しまして事務局から少しご回答いただけたらと思います。
- **馬淵総合政策課長**：まずこのプロジェクトのねらいですけれども、実施計画は4年間で目指そうとしているものです。ですから、4年間で目指すべき姿を実現したいと考えていて、それを指標のところ、実際に4年後はこのプロジェクトの達成度を象徴的に表す数値をこの数字まで引き上げていきたいと考えている、そういうことをご理解いただければと思います。その指標を評価の際には、資料2の2ページの一番下の指標の動向のところ、数字を追っていくことで、4年後の目標値に対してどうなっているかということを押

さえていきたいと思っています。あと、KPIにつきましてウエイトが等しいのかというお話がありましたけれども、こちらが必ずしも等分というわけではないです。このプロジェクトのねらいを達成するにあたって、県の施策で何が一番効いているのか、より効いているものは何かということをいろいろ庁内でも議論しまして、かつ数値が取れるもの、目標として設定できるもの、そうした前提条件の中で選んだのが、結果としてこの冊子に出ているKPIとしてご理解いただければと思います。それから、インプットについても、きちんと示す必要があるのではないかとご指摘でしたが、今回、実施計画では、127ページにプロジェクト事業費といたしまして、各プロジェクトで計画している予算、これだけ事業費がかかるだろうという見込みの金額をお示ししています。今日の資料には載せていませんが、評価のときには、きちんと計画した事業費がどれだけ予算化されたのかということもしっかりと示していきたいと思っています。以上でございます。

○ **小野島部会長**：はい、次に山岸委員をお願いします。

○ **山岸委員**：お時間が差し迫っているところで申し訳ございません。馬淵総合政策課長におかれましては一つ一つご丁寧にお答えいただきましてありがとうございます。本当にすごく専門的な視点でのご発言も多かったところでもあるのですが、私もこの計画やそれに関わる評価というのは、まずこれを行うことによってやはり県民の皆さんの生活や神奈川という県のあり方に興味関心を持ってきて、それがまた新たなまちづくりに繋がっていくという、これが本来の目的であるのかなど、そういうふうに認識しているわけでありまして。それらを踏まえてまずご質問したいのですが、今回のこの評価で言われている、県民の皆さんというのは具体的にどういった人たちなのか、つまりその県民というのは、私たちがみたい、当たり前これを読めば何でもわかるような県民だけではなくて、障害をお持ちの方々やもちろん小さな子どもたちもいるわけですし、そうした子ども達全員が分かって理解するというのが本当のこの県民に伝わることの最終的なゴールだと理解しています。そういうことを踏まえたときに、一方、県ではこの評価をどんな人たちに伝えようとしているのかという、その具体的なターゲットは想定されているのでしょうか。やはり今回作った評価報告書をきちんと若者など様々な人たちに覚えてもらうために、1パターンではなくて様々なパターンを作るべきではないかと思います。そうしたご提案とともに、そうだとするならば、中身は変えずに、そうした様々な県民にも伝わるような中身をどうするのかということを見ると、あまり専門的過ぎてもよくないし、そうした部分のバランス感覚みたいなものも何となく分かってくるのではないかと思います。つまり、大人だけが分かればいいのか、理解している私たちだけが分かればいいのかというのではなくて、見せ方を変えても、様々な県民の皆さんに理解できる内容であることをゴールにするという意識で、評価のあり方、見せ方を考えていくという視点を持って考えていくということが大事かと思います。最後に具体的な質問として、資料1の7ページ、今後のスケジュールが書かれていますが、今回熱意を持って、各部局の方たちも評価について取り組んでいくという意志はすごく伝わってきましたが、各部局の皆さんもやはりしっかりやっていただかなくてはいけないとともに、この2月中旬から4月中旬という議会の開催や、新年度でもあるという時期であることから、スケジュール的に可能なのかという簡単な質問・意見を私からさせていただきたいと思っています。

○ **小野島部会長**：ありがとうございます。貴重なご意見をいただきましたので、事務局でおそらく持ち帰って、どのような視点で報告書を作っていくのかといったところは、今後議論していただけるものだと思います。1点、質問をいただきましたので、事務局、ご回答をお願いします。

○ **馬淵総合政策課長**：スケジュールにつきましては、このスケジュール感でやっていこうと思っています。と言いますのも、先程も申し上げましたけれども、次年度の政策改善につなげるためには、やはり課題を抽出して、来年度、何をやっていくかという議論をある程度夏の時点で庁内で議論を進めていかないと間に合わないこととなりますので、そうした意味で、まず一次評価は4月中旬までに、事業部局と総合政策課で協力をしてやっていきたいと考えています。

- **小野島部会長**：ありがとうございます。個人的には二次評価はこんなに短くて間に合うのかと思います。が、いずれにせよ、基本的には2月中旬から4月中旬にかけて一次評価を実施していくというような流れになるということでございます。続きまして、坪谷委員、よろしくをお願いします。
- **坪谷委員**：ありがとうございます。時間も限られていますので、手短にご質問とコメントということで出させていただきます。新かながわランドデザインの実実施計画の中に、政策の立案・企画・実施にあたっては、「3つの主流化」という視点が今回入っていて、その3つの視点、「ジェンダー」「ともに生きる（ともいき）」「当事者目線」の視点を「3つの主流化」として、いつも意識していきます。という表記があるのですが、これはとても大事な視点だと思いますし、ここまで書けるのは神奈川県だからこそではないかと思いますが、いつも私は、神奈川県のランドデザインにはすごく全国的にも先駆けた視点というのが、たくさん盛り込まれているので、私自身、すごく勉強させていただいています。例えば、ランドデザインではないのですが、神奈川県の施策を大学の授業で、学生たちに読み込ませるなどしており、教育的な効果というのもとても大きいのではないかと個人的に考えています。そこで質問ですが、3つの視点「ジェンダー」「ともに生きる（ともいき）」「当事者目線」というのは、おそらくどの項目にも関わってくると思いますし、先程来、皆さんがおっしゃっていた、様々な立場、年代や性別、私の分野であれば、国籍や海外にルーツを持つ人になりますし、また、当事者目線についても、県民の視点・立場に立って、ということになるかと思うのですが、これらを実評価にどのように活用していくのか、取り込んでいくのか、何か計画とかありましたら、教えていただきたいと思います。
- **馬淵総合政策課長**：ありがとうございます。この3つの主流化につきましては、昨年来から、県として、こういった視点をいつも意識しようということで、全庁で取り組んでいます。例えば、我々、総合政策課であれば、昨年度、計画の概要版のパンフレットを作成する際に、ジェンダーに配慮して、固定的な性別の観念に捉われないようなデザインにしたり、目の不自由な方でも、そのパンフレットの中身が分かるように音声コードをつけました。また、計画を策定したときには、点字版や外国語版も作成しました。今、お話をありました評価する際に、その視点を、どのように落とし込んでいくかについては、そこでも、3つの視点を意識することが必要であると思っています。具体的にこういったことをやりますということは、今申し上げることが難しいですが、3つの視点を意識しながら、全庁を挙げて取り組んでいます。以上でございます。
- **小野島部会長**：その他、ございますか。予定のお時間になりましたが、いかがでしょうか。原嶋委員どうぞ。
- **原嶋委員**：今回、評価するということと、評価をどのように伝えるかということが若干、混ざって議論されている点があるので、もう一度整理していただき、この部会では評価をどうするかということの議論も1つ重要な点であり、先ほど申し上げました。評価するということと、伝えるということ整理していただいた方がいいということです。2点目は、KPIではカバーできないことがあることは重々承知で、それを遡りすぎるとKPIの設定そのものを否定していることになってしまいます。KPIは完璧ではありませんが、県民からも色々ご意見をいただいて、半年かけて決めてきたわけであって、それはそれで1つの成果であります。KPIを最初のステップ、土台として、かつ、委員から様々なご意見がありましたが、KPIではカバーできないことをどのように考えていくべきか、ということを感じました。
- **小野島部会長**：はい。ありがとうございます。その他、ご意見よろしいでしょうか。非常に貴重なご意見をいただきましたし、先ほど、原嶋委員がおっしゃいましたように、どのように評価するのか、そして、どう伝えるのかを整理する必要があることも重要な視点だと考えております。委員の皆様からいただいたご意見につきましては、先ほど申し上げましたが、事務局で改めて整理いただきまして、計画の評価手法をま

とめた上で、10月に開催予定の第102回計画推進評価部会で、改めて審議させていただきたいと考えております。そのような形で進めたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

- **委員**：異議なし。
- **小野島部会長**：それでは本日の議事につきましては、以上をもちまして、終了とさせていただきます。事務局から何か連絡事項等、ございますか。
- **村上副課長**：様々なご議論ありがとうございました。それでは事務局から今後のスケジュールの予定についてご説明させていただきます。参考資料をご覧ください。参考資料の中央に、本日の第101回計画推進評価部会が記載してございます。その下の、10月中旬ですが、第102回計画推進評価部会を開催させていただき、本日ご議論いただきました、新かながわランドデザインの進行管理につきまして、最終的な出来上りを想定した、ご議論をいただきたいと考えております。その上で、11月中旬には第146回総合計画審議会を開催させていただき、ご議論をいただく予定となっております。事務局からの連絡事項は以上でございます。
- **小野島部会長**：以上をもちまして、本日の部会を閉会させていただきたいと思っております。熱心なご議論、本当にありがとうございました。